

平成16年12月 検定試験

〔No.34〕 ダイアグノーシス・コードを持ち、ABS警告灯が点灯している場合の故障診断に関する記述として、適切なものは次のうちどれか。

- (1) ダイアグノーシス・コードがパルサ診断に関する表示をした場合、ダイアグノーシス・コードを消去させた後、車速 10 km/h 以上で走行して再現テストを実施し、ABS警告灯が点灯して当該ダイアグノーシス・コードが確認できたときは、該当した車輪速センサのパルサ歯欠け点検を実施する。
- (2) ダイアグノーシス・コードがソレノイド診断に関する表示をした場合、イグニッション・スイッチをOFFからONにして、警告灯が消灯しないときは、ソレノイドと信号線の断線・短絡点検を実施する。
- (3) ダイアグノーシス・コードがモータ・ロック診断に関する表示をした場合、ダイアグノーシス・コードを消去させた後、車速 10 km/h 以上で走行して再現テストを実施し、ABS警告灯が点灯して当該ダイアグノーシス・コードが確認できたときは、ポンプ・モータ・リレーを交換する。
- (4) ダイアグノーシス・コードがモータON故障診断に関する表示をした場合、イグニッション・スイッチがOFFの状態でも、ポンプ・モータが作動しているときは、モータ(モジュレータ・アセンブリ)を交換する。